

2 国 評 委 第 3 号
令和2年12月23日

各 国 立 大 学 法 人 学 長
各 大 学 共 同 利 用 機 関 法 人 機 構 長 殿

国立大学法人評価委員会委員長
車 谷 暢 昭

令和元年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）

国立大学法人評価委員会では、この度、貴法人の令和元年度に係る業務の実績に関する評価を行いましたので、国立大学法人法第31条の3第3項の規定に基づき、その結果を通知します。

<担当>

（国立大学法人に関しては）

文部科学省高等教育局国立大学法人支援課
国立大学戦略室

TEL:03-5253-4111（代表）（内線 2002）

（大学共同利用機関法人に関しては）

文部科学省研究振興局学術機関課
評価・調査分析係

TEL:03-5253-4111（代表）（内線 4301）

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人愛知教育大学

1 全体評価

愛知教育大学は、広域の拠点的役割を果たす教育大学として、「高度化」を主軸に「実践力の育成」、「現職教員の再教育」を行うことにより、学校が直面する現代的課題への対応力を有し、これからの社会を担う子供たちの未来を拓くことができる教員及び学校教育を支援する人材の養成を目指している。第3期中期目標期間においては、現代の教員及び学校教育支援の専門家に求められる豊かな人間性、基本的な資質能力、実践的指導力、課題対応力を育成・担保するため、教育内容、教育方法、指導体制、就学条件の充実（整備）と附属学校や地域教育現場との連携を図ること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、教育現場のニーズを踏まえた大学院改組を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

アドミッション・オフィス（第三専門部会）において検討を進め、一般選抜前期日程において、入学者の調査書を用いた追跡調査で、高等学校の学習成績と入学後の修学状況等との間に相関が見られたため、調査書を「高等学校における主体的、能動的な学びが集約された資料」と位置付け、調査書の点数化を行い、2次試験の総点の5%以内課すこととしており、これらのことを踏まえ、英語認定試験の加点方法、大学入学共通テストにおける国語の記述式問題の加点方法、一般選抜の選抜方法と調査書の利用（調査書の点数化）、特別選抜における総合型選抜の導入と募集人員（3割程度）、総合型選抜・学校推薦型選抜の選抜方法の提示入学者選抜方法と「学力の3要素等」の対応などの見直しを行っており、総合型選抜・学校推薦型選抜の様式等に反映させた上で、令和2年3月に「令和3年度愛知教育大学入学者選抜方法(令和2年度実施)の見直しに係る予告について」として公表している。（ユニット「入学者選抜方法の再編と入試広報の強化」に関する取組）

令和2年1月に、教職員9人及び学生12人をカンボジアに派遣し、「カンボジア教育実地研修」を行うとともに、同国プノンペン（都市部）とシェムリアップ（農村部）の小学校4校にて約2,000人の子どもの身長・体重・体組成の測定を行い、そのデータを基に都市部・農村部のカンボジア児童の発育に及ぼす給食の効果を明らかにするとともに、同国の子どもの発育曲線のサンプルを作成している。「ユニット「アジア地域における教育研究者養成支援」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

教育現場のニーズを踏まえた大学院改組

大学院改組にあたり、県・市の教育長や小・中・高校の校長会長、大学OB・OGなどから構成される「教員養成の質向上に関する会議」において、「外国人児童生徒支援は、愛知県における教育現場のニーズが非常に高く、この分野において全国的に進んでいることから、コース設計に反映してほしい。」との要望・意見を踏まえ、教員の高度化や学校の諸課題に適切に対応できる能力の育成を図る4つのコースからなる教育実践高度化専攻と教育現場を支える「チーム学校」の人材を育成する教育支援高度化専攻を令和2年4月に設置することとしている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

大学と附属学校におけるESD・SDGsに関する教育プログラム

大学と附属学校でESD・SDGsに関する教育プログラムに取り組み、小学生以上を対象に、SDGsとは何か、SDGsを達成するためにはどのようにしたらよいかをわかりやすく学ぶプログラムを開発しており、街づくりをベースに、仮想の土地に様々な建物パーツをはめ込んで街を完成させるもので、仮想の街づくりという体験を通して、SDGsとは何か、身近な施設や建物がどのようにSDGsに貢献しているかについて理解させる教材となっており、この教材は、愛知県の環境イベントや愛知県ユネスコスクール交流会で試行した上で、さらに修正を加え、附属名古屋小学校と附属岡崎小学校の授業で活用されている。